

## 2016年 競技者必携改訂（抜粋）

（公財）全日本軟式野球連盟

1. 2. 3 は、少年部・学童部のため省略。
4. 「試合中の用具、その他に関する事項」7を次のように改める。  
打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けた時には、球審は、攻撃側の監督と協議し臨時代走の処置を行うことができる。
6. 「規則適用上の解釈」(9) を次のように改める。  
投手の投球当時とは、投手が打者に向かって投球に関連した自然の動作を始めたときをいう。セットポジションの際の“ストレッチ”は投球動作の開始とはみなさない。
7. 「規則適用上の解釈」(26) に次を追加する。  
悪送球が野手の手を離れたときの走者の位置について（7.05g 関連）  
1アウト走者一・二塁、二塁走者がけん制により二・三塁間でランダウンプレイとなった。その間、一塁走者は二塁に達していた。その後、ランダウンプレイにおいて二塁手が三塁へ悪送球してボールデットの箇所に入ってしまった。悪送球が野手の手から離れたとき、二・三塁間には二人の走者がいた。このような場合は「各走者がその時に位置していたところ」との解釈から、一塁走者には二塁から2個の塁、すなわち本塁までの進塁を認める。
8. 「規則適用上の解釈」(27) に次を追加する。  
対象走者以外に対するけん制球について（8.05d・h 関連）  
1アウト走者二・三塁、野手は前進守備、投手は投手板上から三塁にけん制球を投げた。三塁手は、一歩前に出てその送球を捕って素早く二塁に送球し、二塁走者をアウトにした。三塁手に三塁走者をアウトにしようとする行為も見られず、ましてや、三塁手も一歩前に出たということで「ボーク」が宣告される。